

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
 (事務局 圓藤吟史)
 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3
 大阪市立大学大学院医学研究科
 産業医学分野(環境衛生)内
 FAX:06-6646-3160
 発行責任者・圓藤吟史(地方会会長)

<http://www5.ocn.ne.jp/~jsohkink/>

メタボリックシンドロームに焦点をあてて

日本産業衛生学会近畿地方会 会長 圓藤吟史



第56回近畿地方会総会の特別企画は、メタボリックシンドロームに焦点をあてて、様々な角度から議論しました。下村伊一郎先生(大阪大学)は特別講演で「メタボリックシンドロームの考え方と最新知見」を基礎・臨床医学的に解りやすく説明されました。シンポジウムでは、高田康光先生(松下ホームアプライアンス社)は健康保険組合が特定保健指導の実施主体で職場での対応が難しい中での取り組みについて、平田真以子先生(みずほフィナンシャルグループ)はポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチでの取り組みについて、中川徹先生(日立)は行動療法での取り組みについて、内藤義彦先生(武庫川女子大学)は身体活動の効果とその評価について、それぞれ紹介されました。

メタボリックシンドロームの概念は、健康増進法や高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて「健康づくりの国民運動化」と「健康診査・保健指導の重点化・効率化」を図るために導入されました。しかしながら、本学会の法制度委員会が「雇入時健康診断及び一般定期健康診断における腹囲の測定に関する課題」としてまとめ、理事長名の「労働安全衛生規則の一部改正に関わる省令案の実施に関する要望書」が2007年7月5日に厚生労働大臣に提出されましたように、産業保健での枠組みと齟齬があります。また、特定健康診査・特定保健指導はパイロットスタディーでの知見から、いきなり国レベルに上げた一大実験です。とはいえ、産業保健に携わるものとして、国が一次予防を重視する政策に転換したことを評価し、産業保健活動を推進する中で、効果的、効率的な行動変容の方法を開発するとともに、産業保健を産業疫学研究でもって評価し、健康職場をつくっていくことが求められます。その契機となる特別企画でした。

さて、第48回近畿産業衛生学会が11月22日に大阪大学で森本兼義教授の下で開催されます。六反一仁先生(徳島大学)による特別講演「ストレスの理解：ストレス関連疾患と遺伝子発現」と、小泉昭夫(京都大学)「環境リスクコミュニケーション」、夏目誠(大阪樟蔭女子大学)「上司・同僚のサポートとストレス反応変容」、堤明純(産業医科大学)「労働格差の意味するもの」、茂原治(和歌山健康センター)「森林自然交流と働く意欲」の各先生によるシンポジウム「安寧の労働を求めて：ストレスコミュニケーション」が企画されています。一般演題は10時から発表されますので奮って演題を出して戴き、皆様方と討論、意見交換、交歓を深めたいと存じます。

近畿地方会の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしております。



平成20年度総会議事録

日時 平成20年5月24日(土)
13:00~13:50

場所 大阪市大医学部学舎4階大講義室

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 物故会員の報告

平成19年3月~平成20年5月

近山 行夫(ちかやま ゆきお)氏

中川 美賀(なかがわ みか)氏

柏田恵理子(かしわだ えりこ)氏

原田 章(はらだ あきら)氏

4. 黙祷

5. 議長選出

森岡郁晴先生(和歌山県立医大)

6. 総会成立の確認

現在の地方会会員数1,253名(5月24日現在)

出席者47名(委任状601名)

(会員の5分の1以上の出席により成立する-地方会会則第18条)

7. 議事署名人名選出(2名)

竹下達也先生(和歌山県立医大)

鈴木純子先生(日本アイ・ビー・エム(株))

8. 議事

(1) 平成19年度事業報告

圓藤総務担当理事より地方会ニュース5月1日号に掲載されたものを資料として報告された。会場より異議なく承認された。

(2) 平成19年度決算報告

圓藤総務担当理事より資料に基づき報告され、清田担当幹事より2月末の銀行利子の14円が決算書に算入されていないため、平成20年度収入としたい旨申出があり、了承された。会場より異議なく承認された。

(3) 平成19年度監査報告

上田美代子監事より5月16日(金)14時から監査を実施した旨報告がなされた。銀行利子14円が19年度収入に未算入になっていることが判明したので、総会にて20年度収入として算入する了承を得る事で対処するとの事務局の申出を了解し、その他については特段の問題がなかった事が報告された。会場より異議なく承認された。

(4) 平成20年度事業計画(案)

圓藤総務担当理事より地方会ニュース5月1日号に掲載されたものを資料として報告され、以下の事業確定が捕捉された。

○第13回近畿産業医部会研修会

日時 平成20年10月4日(土)

場所 大阪市立大学医学部学舎4階大講義室

○産業衛生講座

第32回

日時 平成20年6月14日(土)

場所 大阪医大新講義実習棟1階

第33回

日時 平成20年12月13日(土)

場所 大阪医大新講義実習棟1階
(第31回~33回同じ会場にて開催)

会場より異議なく承認された。

(5) 平成20年度予算(案)

圓藤総務担当理事より地方会ニュース

5月1日号に掲載されたものを資料として報告され、以下の訂正がなされた。

○平成19年度銀行利子14円を平成20年度収入に組み入れる。

○予備費412,234円→500,000円に訂正

確定された20年度予算を7月号ニュースに掲載したいとの事務局からの申出に会場より異議なく承認された。

(6) 第48回近畿産業衛生学会(平成20年 大阪)について

第48回近畿産業衛生学会長の森本兼曩大阪大学教授より資料に基づいて説明と案内がなされた。

日時 平成20年11月22日(土)

10:00~17:30

会場 大阪大学医学部 銀杏会館(大阪大学吹田キャンパス内)

演題申込締切 9月12日(金)17時まで

抄録提出締切 10月24日(金)17時まで

(詳細は、近畿地方会ホームページよりアクセス可。)

なお、特別企画に関しては、産業看護職等との関連性を考えたものに重点を置いた企画を考慮している旨の報告がされた。

会場より質疑なく終了した。

(7) 平成20年度本部及び地方会役員選挙について

圓藤吟史会長より、以下7名の先生方が選挙管理委員に推薦された。

なお、7名の選挙管理委員から互選にて選挙管理委員長が選出される。

森岡郁晴先生、佐野 敦先生、道辻広美先生、

土手友太郎先生、石山珠江先生、上坂聖美先生、

鮫島真理子先生

9. 閉会

ポカリスエットは 地球にやさしい【エコボトル】に

1本あたりのペット樹脂
約9g減量
(27g→国内製造最軽量18gに)

年間でペット樹脂
約2700t節約
(年間3億本生産の場合)

CO₂排出量換算で
約8300t削減
(約1500世帯分の年間排出量に相当)

平成19年度容器包装3R推進
環境大臣賞製品部門
最優秀賞受賞



大塚製薬株式会社大阪支店
〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40
TEL:06-6441-6532

平成19年度近畿地方会計収支報告および平成20年度予算

1. 収入の部

平成19年3月1日から平成20年2月29日まで

科 目	平成19年度予算額	平成19年度決算額	平成20年度予算額
(1) 会費収入	2,000,000	2,037,000	2,000,000
正会員会費収入	1,700,000	1,734,000	1,700,000
特別会員会費収入	300,000	303,000	300,000
(2) 助成金収入	1,900,000	3,364,500	1,900,000
日本産業衛生学会助成金収入	1,900,000	1,864,500	1,900,000
第80回産衛学会より	0	1,500,000	0
(3) 事業収入	200,000	90,000	200,000
広告料収入	200,000	90,000	200,000
(4) その他収入	100	440	300,200
受取利息	100	440	200
役員選挙積立金より	0	0	300,000
当期収入合計	4,100,100	5,491,940	4,400,200
前期繰越収支差額	862,134	862,134	2,469,298
収 入 合 計	4,962,234	6,354,074	6,869,498

2. 支出の部

科 目	平成19年度予算額	平成19年度決算額	平成20年度予算額
(1) 事業費	3,000,000	2,571,619	3,000,000
①機関誌費	1,450,000	1,199,235	1,450,000
印刷費	500,000	397,462	500,000
広報活動費	150,000	150,000	150,000
通信運搬費	800,000	651,773	800,000
②助成金支出	1,150,000	900,000	1,150,000
近畿産衛学会開催助成金支出	400,000	400,000	400,000
産業医部会助成金支出	100,000	100,000	100,000
産業看護部会助成金支出	100,000	100,000	100,000
産業技術部会助成金支出	100,000	100,000	100,000
研究会補助金	300,000	200,000	300,000
研修会補助金	150,000	0	150,000
③例会事業費	400,000	472,384	400,000
地方会総会開催費	150,000	222,384	150,000
学術担当費	250,000	250,000	250,000
(2) 管理費	1,250,000	987,257	1,850,000
①運営費	650,000	527,017	1,250,000
幹事、代議員会費	150,000	48,517	150,000
役員選挙費	0	0	600,000
IT関連、ホームページ維持管理費	500,000	478,500	500,000
②事務費	600,000	460,240	600,000
事務局費合計	400,000	400,000	400,000
備品	0	31,500	0
消耗品費	100,000	28,740	100,000
地方会事務局移転費用	100,000	0	100,000
(3) その他支出	300,000	300,000	0
役員改選積立金支出	300,000	300,000	0
(4) 予備費	412,234	25,900	500,000
予備費	412,234	25,900	500,000
当期支出合計	4,962,234	3,884,776	5,350,000
当期収支差額	-862,134	1,607,164	-949,800
次期繰越金	0	2,469,298	1,519,498
支 出 合 計	4,962,234	6,354,074	6,869,498

財産目録 1.選挙費用積立金…30万円 2.ノートパソコン・デル…1台 3.ノートパソコン・NEC98ノート…1台 4.エプソンレーザープリンター…1台

第56回近畿地方会総会シンポジウムを拝聴して

三菱マテリアル (株) 堺工場・健康管理室 及川三津子

平成20年4月からメタボリックシンドロームに着目した生活習慣病予防のための特定健診・特定保健指導が義務付けられ、当健保組合では生活習慣病予防には早期の対応が効果的と判断し、被保険者全員に定期健康診断において特定健診項目を実施し、必要な保健指導を行うことになりました。従来実施してきた定期健康診断の事後措置と特定保健指導（外部委託機関）との調整やフォロー、メタボ予備軍への保健指導等に活用できる発表やご意見が伺えると期待し、参加いたしました。

松下電器産業 (株) 高田康光先生から、定期健診の事後措置としてメタボの概念を入れた保健指導を行うこと、ハイリスク者だけでなく若年層の対象に重点を置きメタボ予備軍を減らすこと、健診受診者全員に面談を行うことで理解を深め、分煙・喫煙対策による職場環境の改善もリスク軽減に有用である等、領きながら拝聴しました。みずほフィナンシャルグループの平田真以子先生からは、ポピュレーションアプローチを大切に、腹囲測定や腹部生体インピーダンス法を用いての内臓脂肪面積測定を全体に実施し、ハイリスク者には、栄養指導で食生活のゆがみや過栄養を、活動量計を用いて運動不足を、頸動脈エコーで動脈硬化の3つを実感させること、また活動量計を用いた保健指導の結果3MET以下の緩やかな活動でも長ければ、メタボ予防の効果はあるとのことでした。実感させることで本人の自覚を促し、身体を動かすことを習慣づける必要性を感じました。日立健康管理センターの中川徹先生の「はらすまダイエット」は具体的でわかりやすく、アイデアが豊富で楽しく、取り組みやすい指導方法だと思いました。武庫川女子大学生活環境学部の内藤義彦先生からは、循環器疾患の予防に身体活動は有用で、エネルギー消費量、骨量、筋量の増加だけでなく、ストレス解消やストレス耐性強化の心理的效果もあり、身体活動量評価方法についてお話がありました。最後に、大阪大学大学院の下村伊一郎先生の特別講演があり、大変興味深く拝聴しました。

充実した内容で3時間が短く感じられ、今後の活動に意欲的に取り組みたいと思いました。



第56回近畿地方会総会特別講演を拝聴して

みずほ大阪健康開発センター 廣部 一彦



大阪大学内分泌・代謝内科学教授の下村伊一郎先生の特別講演「メタボリックシンドローム (MetS) の考え方と最新知見」を拝聴しました。最初に、大学院生の時にCTをコピーして皮下脂肪と内臓脂肪を切り紙細工で切り分け、微量天秤で測定していたことなど、そしてこれらの症例を積み上げていくうちに、内臓脂肪が多い群に代謝異常の頻度が高いことが分り、そこから内臓脂肪型肥満→内臓脂肪症候群→メタボリックシンドロームへと発展していったこととお話しされました。また大阪大学の細胞工学センターでのBody Mapping Project (人体遺伝子解析)に参加され、遺伝子解析により脂肪組織が生体で最大の内分泌臓器であることが分りアディポサイトカインと概

念づけた。その中で最も多く脂肪組織でのみ産生されるアディポネクチンを発見し、ここからMetSの研究が飛躍的に発展したとのことでした。

そして、内臓脂肪蓄積により低アディポネクチン血症がおこり、糖尿病、脂質代謝異常、高血圧、動脈硬化進展に関与し、また肝臓繊維症や大腸がんの発症につながることを明らかにされてきました。

内臓脂肪蓄積と低アディポネクチン血症との関係は不明でしたが、最近の研究では、肥満脂肪細胞が酸化ストレス源となり (Fat ROS) 局所脂肪組織でのアディポサイトカイン産生異常、全身の酸化ストレス上昇 (老化に関連) につながることが分ってきました。

更に最近の研究ではFat Hypoxiaの概念を提唱され、睡眠時無呼吸症候群や喫煙などによる低アディポネクチン血症も、低酸素血症が増悪因子になっている可能性について説明されました。

最後にMetS予防、アディポネクチンを増やす食生活、運動、そして内臓脂肪測定 of 簡便な腹部生体インピーダンス法などもご紹介され講演を締めくくられました。

MetSの初めからup to dateの研究成果まで、非常に分りやすくご講演いただきました。超満員の参加者が最後まで一人も席を立たなかったことを付け加えまして、特別講演のご報告といたします。

第81回日本産業衛生学会印象記

創壯コンサルティング 上田 伸治



今年の日本産業衛生学会は札幌での開催だった。例年よりも少し時期がずれて6月24日（火）から27日（金）の日程で行われた。札幌は大阪よりもずっと涼しく、車窓から見る新緑の町並みはどこも美しい。市街の川の水々もラベンダーの咲き香る広々とした公園もどこか異国を思わせる。日常の仕事を離れ、おおらかな気持ちで学問に取り組める絶好の環境である。札幌駅に着いた24日19時頃、雨が上がったばかりのまだ明るい空には大きな虹がくっきりと映えていた。

今回は創立80周年の記念すべき学会で、企画運営委員長の岸玲子先生の情熱と高い志は会場の隅々にまで息づいていた。講演集の「ご挨拶」によれば登録演題は未聞の620題を数えたそうである。

る。

メインテーマは、「人間らしい労働」と「生活の質」の調和…“働き方の制度設計を”。近年ILOが強く提唱しているdecent workに呼应したものである。安全衛生から過重労働やメンタルヘルに亘る課題群を、人間らしさを基点として具体的包括的に考え取り組んで行こうとの提唱である。広く臨床医歯学から看護・保健学、中毒学、労働衛生工学、安全学、疫学、法学、経営学等々を学際的に包含する本学会において、本質的で且つ時宜を得たテーマであると思う。

中でもメインシンポジウムは圧巻であった。岸先生による非正規雇用の問題を切り口にして職場から世界経済までを一本の線をつないだ深い考察に基づく問題提起。堀光子元ILO駐日代表によるグローバル経済化の深化の歴史と実像を踏まえてなされたdecent workの考え方についての基調講演。そして産業医、産業看護職、研究者、行政、経営、労組それぞれの代表からも有意義な講演がなされた。司会の小木和孝先生の進行も秀逸で、この課題の理解を深めるのに大いに役立った。

学会に参加して私が持ち帰った宿題は人間らしい労働とは何かという問題である。人間と言っても価値観、性格、人格的成熟度、才能、教育、経済力、住んでいる国の文化や政治経済状況などによって「らしさ」は一様ではないだろう。しかしそれでも人間に焦点を当てて「らしさ」を哲学的現実的に思索することは、産業保健の最重要課題であると胸に刻み込んだ次第である。

大阪産業保健推進センター 保健師 大脇多美代



本学会は設立80周年記念を迎え、札幌コンベンションセンターに於いて、北海道大学大学院岸玲子先生を企画運営委員長に、平成20年6月24日～28日の4日間、盛大に開催された。おりしも北海道は、洞爺湖サミットを2週間後に控え、空港や札幌の街並みは警備の関係者で溢れ、何となく緊張感が漂うなか、多くの参加者が集会した。今回のメインテーマは「人間らしい労働」と「生活の質」の調和—働き方の新しい制度設計を—とされ、6月26日に、メインシンポジウムが開催された。基調講演後、パネル討論があり、メインテーマに対して「日本でどのように実現するのか？」という視点で6名のパネリストの発表があった。学会員の立場から医師、保健師、

また公的機関、経団連、労働組合連合など、第一線で取り組んでおられるそれぞれの立場から、わが国での労働者の勤務・雇用形態の多様化、女性勤労者への就業制度、労働問題が心身の健康に与える影響等々、産業現場で労働生活の質の向上と調和に対する意見を提示され、会場は立ち見が出るほどの盛況ぶり、多くの示唆を得るものがあつた。サテライトシンポジウム「非正規雇用労働者の健康と安全をどう守るか」は、処遇、メンタルヘルス対応等、課題と展望について結論を引き出すまでには至らなかったが、今後さらに多くのディスカッションが必要であろうと感じた。

産業看護フォーラムでは、「多様な就業形態をとる労働現場における産業看護職の役割」をテーマに、活発に討論された。特に、産業医の立場から山田先生の「組織が求める産業看護職の未来像」で、産業看護職は産業保健を遂行することは当然であるが、安全や環境に積極的に関わる時代となって来た。労働者の健康を維持するための費用を、将来の疾病発生抑制のための位置づける「健康会計」の紹介があり、産業看護職であれば「経済」を学び・知ることは原点である等多くの示唆を得た。その他、一般演題口演発表でも盛況で、年々増加しているポスターセッションも、413題が出題され、共にコアタイムには大勢の参加者が詰めかけ、熱心にディスカッションが行われていた。いずれも興味深いテーマが取り上げられており、北海道という遠方地での開催であつたが、空気も爽やかで新緑が映え、また食べ物も美味しく参加して実り多い学会であつた。

産業医部会からのお知らせ

1) 第13回 近畿産業医部会研修会

日時：平成20年10月4日(土) 14:00~17:00

会場：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

内容：メインテーマ「新型インフルエンザ」

基調講演 「新型インフルエンザの脅威と経鼻ワクチンへの期待」

長谷川秀樹先生(国立感染症研究所感染病理部)

シンポジウム「新型インフルエンザのパンデミックに備えて - 事業所における対策 -」

* 単位認定申請中

詳細が決まりましたら、近畿地方会のホームページに掲載致します。

2) ケースカンファレンス研修会(共催：大阪府医師会、大阪産業保健推進センター)

「産業医職場診断」：平成20年8月30日・平成20年9月27日・平成20年11月8日・平成20年12月6日・平成21年1月24日

「職場巡視」：平成20年7月26日・平成20年8月9日・平成20年9月13日・平成20年11月15日

「メンタルヘルス」：平成20年9月6日・平成20年9月12日・平成20年9月18日・平成20年10月11日・平成20年10月31日

産業看護部会からのお知らせ

タバコについて

近畿地方会産業看護部会幹事・園田学園女子大学 中島美繪子

今年の世界禁煙デーの標語をご存知ですか。「たばこの害から若者を守ろう」です。

昨年7月には、「たばこの規制に関するWHO枠組条約」の第2回締約国会議で、「たばこの煙にさらされることからの保護に関するガイドライン」が採択され、受動喫煙防止対策のあり方が問われています。4月からスタートした特定健診・特定保健指導においても、対象者が喫煙者である場合、食生活、運動に関する指導に加え、禁煙指導を行うなどタバコに関する課題は多々あります。

最近、産業保健・産業看護のテキストには必ず載っている、ラマツィーニ(1633-1714)の「働く人の病」を読みました。ラマツィーニは医師で、診察しながら、職業に特有の病気があるのではないかと考え、実際に作業現場を訪れ、病気と職業との関連で観察・問題点を把握し正確に記載しました。労働衛生の父といわれる所以です。その中に記されている「タバコ職人の病気」について紹介します。

当時のイタリアでは、タバコ葉は縄状に巻かれた状態で輸入され、タバコ職人が葉を開き、解き、馬に臼をひかせ粉末にした。馬が碾き臼を廻す間、職人はほぐした葉を投げ入れ続けるが、細かい粒子の煙が広く拡散し、強い臭いにより、頭痛、めまい、吐き気などに悩まされた。巻かれたタバコ葉を終日ほぐしている職人はひどい吐き気と激しい下痢に悩まされ、巻かれたタバコ葉の上に座していると痔出血があったと述べています。

ひどい臭気と飛散する粉塵を大量に吸い込み、肺と気管に影響を与え、脳を麻葉のように麻痺させ、胃酸を弱め消化機能が阻害されるとし、職業に特有の高濃度の曝露として捉え対応しました。

また、当時のタバコに対する人々の認識として、使用法によってはクスリの効用もあるとしながらも、「胃が黄色に染まる」、「肺がたるみきり、かわき、萎びる」、「解剖例で深刻な肺や脳の損傷がみられる」など当時解明された点に言及し、タバコ税が財源になっていることなどにも触れ、様々な問題を引き起こすかもしれないとしています。なかなかやめにくいという意味の記述もみられました。

今日のタバコ問題を考えるとき興味深いものがあると思いませんか。

2005年の世界禁煙デーの標語は「たばこに向かう保健医療専門家-行動と対策を」でした。保健医療専門家である産業看護職として、一人ひとりが考え、身近なところから対応していくときなのではないでしょうか。

産業技術部会からのお知らせ

平成20年度の技術部会の総会と研究会は平成21年1月に予定しています。特に技術部会の輪を広げる為に、作業環境測定協会や、学校保健師会などとの協同企画の研究会を計画しています。学校保健師会とはシックハウスの討論会についての具体的な進め方について話し合いをする予定です。是非多くの学会会員の参加を得て、活発な討論会が出来るようにと望んでおります。

どうぞ皆様のご意見をお寄せください。(tkawai@jisha.or.jp)



私たちの職場(10)

中小企業で働く人々の健康サポート

(財) 社会保険健康事業財団和歌山県支部 保健師 青木美恵

(財) 社会保険健康事業財団は、政府管掌健康保険の加入者の方を対象に、生活習慣病予防健診と健診後の保健指導を通じて、中小企業で働く方々の健康づくりを推進しています。主な事業は、健診事業、保健指導事業、健診結果データ等の登録管理業務があります。本部と全国47都道府県に各支部があり、和歌山県支部は和歌山市に事務所があり、スタッフは支部長、事務スタッフ5名、保健師7名で活動しています。

小さな職場ですが、その分チームワークがよく、連携をとりながら、お互いをサポートしながら楽しく仕事をしています。「全員が財団の営業マン!」をモットーに、それぞれの役割・立場で健診・保健事業の推進に向けて、取り組んでいます。

政府管掌健康保険の加入事業所は、中小企業がほとんどで被保険者30人未満の事業所が9割を占めています。従業員の健康管理の意識が根付いていない事業所も多く、健診を実施していない事業所もまだまだあります。保健指導の案内を行っても、「仕事の時間内で取ることは非常に困難である」「健診をしているだけでもいいほう」「健康管理は自己責任」という声もよく聞かれ、1回20分の個別相談の時間をとっていただくことも難しい現状です。

当支部では、保健師ができるだけ保健指導に専念できるように、保健指導のPR勧奨や日程調整を、支部長と事務スタッフが行っています。

保健師は、事業所にお伺いして、個別相談や集団学習を実施しています。

保健師は訪問した際に、一人でも多くの方にお会いできるように、当日お会いできなかった方がいる場合には、再訪問の調整を行ったり、お手紙でアドバイスを文書相談でサポートする等、いろいろな方法を駆使しながら、お会いしたいという気持ちを伝えるように心がけています。

保健指導では主にひとり一人にお会いする個別相談を優先に、相談者の方のやる気を引き出す個別相談を行い、相談者自身が自分の課題に気づき、対策を考え取り組むことができることを目指しています。

改善方法を説明する保健指導から、行動変容を促す保健指導へとニーズが変わってきている今日、私たち保健師のスキルアップが求められています。

また、受けてよかったと思ってもらえることが、利用者の拡大につながるので、一つ一つの保健指導の機会を大切にしながら、よいサービスを提供できるよう私たち保健師も日々自己研鑽をしながら、スキルアップを心がけています。

今年度から「特定健康診査・特定保健指導」が始まりました。特定保健指導に力を入れていかなければなりません。1年に1回、健診をきっかけに、自分の健康を考えていただく機会として、特定保健指導に限らず個別相談を大切に考えています。

特定保健指導に似た継続サポートのコースとして、健康増進コース「減量コース」「禁煙コース」の2つのコースがあり、特定保健指導の対象予備軍の方に参加を勧めています。

その他、ポピュレーションアプローチの取り組みとして、健康職場づくり支援にも取り組んでいます。健康職場づくり支援では、事業主や職場の健康管理担当者の方に健康職場づくりチェックリストをつけていただき、会社として取り組む健康づくり計画を立てていただきます。職場で健康づくりの風土が高まると、社員の意識の変化にもつながり効果があると考えています。社内禁煙をきっかけに、禁煙する人も増えてきていますし、食堂メニューや、自動販売機の甘味飲料の種類などの工夫も影響力があります。

集団学習の機会を増やしたり、ポスター掲示やパンフレット配布等の健康情報の提供を行うなど、どんな取り組みでもいいので、できることから取り組んでもらうことを勧めています。会社の理解や意識の変化がもたらす効果は大きいと考えています。

平成20年10月から政府管掌健康保険の運営主体(保険者)は、社会保険庁から全国健康保険協会に変わります。これに伴い当財団に委託されていた健診事業や保健事業も全国健康保険協会に移行されることになり、10月からは名称も変わり、新しい環境の中で、健診事業・保健事業に取り組んでいくこととなります。

委託を受ける立場から、保険者の立場に変わります。今まで培ってきた経験を活かして、これまで以上に喜ばれる保健サービスを提供していきたいと思っています。



会員の声

一年間の大学教員 生活を終えて



財団法人 京都工場保健会
産業保健推進部
櫻木 園子

大学卒業後、臨床研修を経て財団法人京都工場保健会（以下、保健会）に勤めておりましたが、昨年6月から1年間、母校である産業医科大学の産業医実務研修センターに勤務して、6月から保健会に復帰いたしました。

嘱託産業医としてさまざまな事業場で経験したことを産業医実務研修に還元すること、また、労働衛生機関が提供するサービスについて伝えることを期待されて大学に赴任しました。大学では、卒後5～6年目を中心とする臨床医を対象とした2.5ヶ月の産業医実務講座、産業医実務研修センターに所属する卒後3～4年目の修練医の1～2年間の教育、医師会の産業医講習会、わずかですが医学部の講義も担当しました。いつの間にか身についた知識は自分の中では当たり前のことになっていて、初めは何

を伝えればよいのか戸惑いました。人に教えることが一番勉強になるという言葉通り、自分が学ぶことが多くありました。また、教育の方策についてのノウハウを、他の教員の講義を通して学べたことも大きな収穫です。管理監督者教育などの労働衛生教育をする時に活かしていきたいと思っています。

大学という、現場とは違う空気の中で、日本の産業保健について改めて考える機会を得て、ますます中小企業の産業保健の重要性を認識しました。大企業の縮小版では通用しない特異性、経営者の啓発が課題となる企業の多さ。日本の労働者のほとんどが中小規模事業場で働いているという現実。枯れ木も山の賑わいで、つまらない者でも少しぐらいは中小企業の産業保健を推進する役に立てればと考えております。中小企業にこだわる一番の動機は、世間のお役に立てるから、などという高尚なものではなく、嘱託産業医をしていると色々な企業を見ることができ、文化の違いを感じることで面白いくらい、ということなのですが。

このような機会を与えてくださった産業医科大学の森見爾副学長、1年間も職場を離れることを許してくれた保健会には心から感謝しております。

まだまだ未熟な者ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

観察と介入

京都府立医科大学大学院医学研究科
地域保健医療疫学
小 笹 晃太郎

私たちの部門は、平成10年3月に附属脳・血管系老化研究センターに社会医学・人文科学部門（略称：老化研・社会医学）として新設され、渡邊教授が就任しました。その後、平成15年に大学の大学院重点化に伴い、従来の老化研・社会医学の足場の上に、大学院教育と研究の組織としての「大学院医学研究科地域保健医療疫学」を主たる立場とし、医学部医学科の学生教育の組織としての「医学部保健・予防医学教室（公衆保健科学部門）」も兼ねることになりました。従来の衛生学公衆衛生学領域の医学生教育は、保健・予防医学教室（予防医学部門）（酒井敏行教授）と分担して行っています。

集団としての人の健康をまもるために、健康状況を観察・評価することと、その結果にもとづいて予防措置を講じることが必要となります。生活習慣病の場合には、前者は疫学研究、後者は健康教育等が相当します。私たちは、これらの両者に関わってきましたが、最近、双方ともに技術が細分化深奥化してきたため、ひとりで両

者を兼ねることはむずかしくなってきました。しかし、疫学をするときにはその結果をどのように活用するのか、保健活動をするときには何を指標として改善しようとしているのか、つねに心がけていたいと思います。

部門の活動としては、疫学研究では、がんなどの生活習慣病の発生病因の解明のための大規模コホート共同研究（JACC Study）と、さらに遺伝子解析を組み込んで新たに始められたJ-MICC Studyへの参画、学内では老化研としての脳血管疾患や認知症等の疫学研究が、全体として取り組んでいることです。その他、教員それぞれの立場に応じて、胃がん・大腸がん・肺がん検診、スギ花粉症、インフルエンザワクチン等の疫学手法を用いた研究や、予防・介入方面では、禁煙・防煙指導やメタボ保健指導などの生活習慣行動変容、ヘルスプロモーション、セフティブプロモーション、災害保健医療活動など多彩な状況です。

従来の私たちの活動は地域を舞台とするものが多く、あまり産業衛生との接点がなかったのですが、それにもかかわらず、昨年、渡邊教授が近畿産業衛生学会のお世話をさせていただいたこともあり、今後は産業衛生活動へも指向しなければならぬのでしょうか、ますます収拾がつかなくなりそうですので、どうかお手やわらかにお願い申し上げます。

会員の声

労働衛生管理の新展開



中央労働災害防止協会
大阪労働衛生総合センター
太田 裕一

中央労働災害防止協会で、労働衛生業務に就いて、30数年が過ぎた。この間、作業環境管理業務が主であったが、健康管理業務や衛生教育業務、国際協力業務にも就いた。この業務に就いた頃は、まだ作業環境測定士制度がなく、測定の実施について戸惑うことが多かった。今では、作業環境測定の拠り所となる作業環境測定基準や作業環境評価基準が確立され、また分析技術も当時と比べると目覚ましい発展を遂げてきた。それと共に作業場の作業環境の状態も良好になってきている。

しかし、社会の変化や医学の進歩、分析測定技術の進歩等により、新たな労働衛生上の課題も生じてきている。最近の事業場の作業環境を診て気になっていることは、

一部の事業場で作業環境の状態が悪化してきていることである。その理由として、ベテランの安全衛生担当者の退職により、安全衛生管理のノウハウが継承されていないために、安全衛生状態が悪化してきたり、経営基盤の弱い中小企業で設備の老朽化により、設備の隙間から粉じんの漏れ出しが多くなっているケースである。作業環境測定や健康診断は、労働衛生管理のための手段であり目的ではない。これらのデータを有効に生かして、安全衛生状態を常に良好に保つために、事業場内に労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を確立することは、今後大いに推進していかなければならない重要な課題である。中央労働災害防止協会では、OSHMSに関するトータル的なサービスを提供している。最近の化学物質による中毒は、法令で物質名を挙げて規制されていない物質による中毒が半数を超えている。これらの健康障害を防止するために、事業者にはリスクアセスメント指針による管理が求められている。産業界で使用されている主な化学物質は、約57,000種類を超えるといわれているが、作業環境測定方法が確立している物質数、暴露限界値が示されている物質数は少ない。国は平成18年度より未規制の有害化学物質のリスク評価を開始したところである。関係事業場等各方面の積極的な取り組みが期待される。

日々研鑽を怠らず



三井化学(株)大阪工場
健康管理室 保健師
堤 梨恵

私が今の職場に来てはや5年が過ぎ、6年目に入った。思い起こせば看護職として様々な経験を積むことができた。この機会に振り返ってみようと思う。

私が勤務する三井化学(株)は、日本国内に5つの工場、その他、本社、研究所を持ち、それぞれに産業医、看護職が配置され、連携しながら全社的な健康管理を進めている。最近では他工場の看護職とコミュニケーションをとる機会が増え、他工場での事例等を伺い知る貴重な時間となっている。大阪工場は従業員約1200名、広さ155万㎡、甲子園球場約40個分の広さを持っており、私は日々その中で社員と共に健康と向き合っている。

最近の我が社は目下メタボ対策に奔走している。健康保険組合の責任ではあるが、一連の動きを健康管理上のチャンスと捉え、全社的に効果的な施策を展開でき

るようその方向性を模索しているところである。

メタボ対策と言えば最近のメディアではメタボであることによって社会から排除されるとか、査定に響くなど衝撃的な言葉が飛び交っている。大阪工場では07年度から本格的なメタボ対策を始めた。メタボ予防が毛嫌いされないよう注意を払ってきたためか明るいメタボが多いように思うが中々メタボは減らないのが悩みの種である。

しかし、自らの健康状態について真面目に考える社員が年々増えてきたような実感がある。例えば、歩くこと、体重や血圧を毎日測定することなどは医学的にはごく小さな、当然実践すべきことではあるが、これらの習慣を身につけた人から話を聴くときこそ看護職として本当にうれしいと感じる瞬間である。社員の健康を考える際、「継続は力なり」という言葉がことさら重みを持ち、「どんなこと」「どのようにして」「続けられるか」を考え続けてきた5年間であった。

ついメタボ対策の話ばかりになってしまったが、今年からはまた気持ちを新たに頑張っていきたいと思う。私は何事も石の上にも十年と考えている。その半分が過ぎたわけである。この5年、たくさんの方に出会い様々な勉強をさせていただいた。産業看護を築いた先輩方の背中を追いかけ、今までの功績を間近で感じることもできた。日々研鑽を怠らず、今後も地道な努力を重ねていきたいと考える。

第18回 日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会のお知らせ

—第2報— メインテーマ

「活力の創出とリスクの低減に貢献する産業保健」
第18回 日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会
企画運営委員長 (パナソニック四国・松山地区健康管理室) 昇 淳一郎

近畿地方会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。来る平成20年11月27日(木)～29日(土)の3日間、愛媛県松山市におきまして、標記協議会を開催いたします。下記のような実践的プログラムの展開とともに、当学会にふさわしい健康および環境への配慮も推進してまいります。ご来会の程、宜しくお願い申し上げます。

会 場：松山市総合コミュニティセンター
(愛媛県松山市湊町7-5)

プログラム：

11月27日(木)

- 11:00～18:00 <関連企画> 第6回四部会合同セミナー
「ミカン農作業改善と残留農薬」
13:00～14:00 実地研修 (えひめみかんポンジュース工場、JA西宇和みかん選果場、ほか)
13:00～15:00 フォーラムⅠ「教職員のメンタルヘルス対策」座長：廣 尚典、杉原由紀
15:00～17:00 フォーラムⅡ「産業歯科保健研修会」座長：森田 学

11月28日(金)

- 9:20～10:30 「特定健診特定保健指導シリーズシンポジウムⅠ」座長：浦野澄郎、大脇多美代
9:20～11:50 「リレーワークショップ」
10:40～11:50 「特定健診特定保健指導シリーズシンポジウムⅡ」座長：三好裕司、五十嵐千代
13:00～14:00 「社会人基礎力に基く青壮年期労働者の活力創出」座長：實成文彦、演者：諏訪康雄
15:00～17:00 「過重労働対策シリーズシンポジウムⅠ・Ⅱ」座長：車谷典男、大原啓志
15:00～17:30 「産業看護職による職場改善—人間工学的視点に立って」座長：藤井智恵子、小松律
15:00～16:00 「生物学的モニタリングの国内事情と将来展望」座長：芳原達也、演者：川本俊弘
18:15～ 「懇親会・ポスター表彰式」 大和屋本店 杜若の間 (道後温泉)

11月29日(土)

- 9:00～9:50 「メタボリック症候群と睡眠時無呼吸症候群」座長：山田誠二、演者：谷川 武
10:00～11:50 メインシンポジウム「青壮年期労働者の活力創出」座長：永田頌史、島 悟
演者：島津明人、島 悟、井上幸紀、渡辺直登
13:00～14:20 産業保健への提言Ⅰ「産業保健の近未来(健康会計の導入)」演者：大久保利晃
14:30～16:00 産業保健への提言Ⅱ「女性が働きやすい職場づくり」座長：森 晃爾、横本宏子
13:00～14:30 <関連企画>産業看護特別研修会「リ・ワーク支援について」座長：多田敏子
13:00～17:00 <関連企画>産業医特別研修会「じん肺X線写真読影の実践(菅沼成文)」、「内科医が教える内科医のための精神疾患の診かた研修会(福本正勝)」、「就業時間内のメタボリック症候群対策推進の法的背景・根拠(藤代一也)」(文責：昇)

第82回日本産業衛生学会のご案内

企画運営委員長：田中 勇武 (産業医科大学産業生態科学研究所 教授)

学会：2009年5月20日(水)～22日(金)
特別研修会：2009年5月23日(土)

会場：福岡国際会議場 (福岡市博多区石城町2-1)

メインテーマ：超高齢社会を迎える日本 その産業保健戦略は

予定プログラム

- 5月20日(水)：総会、メインシンポジウム、研究会、イブニングセミナー
5月21日(木)：一般発表、シンポジウム、研究会、ランチョンセミナー、懇親会
5月22日(金)：一般発表、シンポジウム、フォーラム、研究会、ランチョンセミナー
5月23日(土)：特別研修会

発表者事前登録・入金締切：2008年12月19日(金)
参加者事前登録・入金締切：2009年2月27日(金)

研修単位の認定

日本医師会の研修単位認定、日本産業衛生学会産業看護師、産業看護職継続教育システム・実力アップコースの単位認定を申請予定です。

お問合せ先

事務局代行
〒807-0822 北九州市八幡西区瀬板1-16-1
株式会社アクシス
TEL：093-603-8786 FAX：093-692-3003
E-mail：vic@axis.co.jp

事務局

産業医科大学 産業生態科学研究所 労働衛生工学研究室内
事務局長 明星 敏彦

Nakanoshima Clinic 中之島クリニック

中之島クリニックが誇る最先端の機器をご紹介します。

●1.PET-CT

癌の早期発見や全身検査、治療効果の判定などに有効です。

●2.MRI

現時点で最大の磁力を持つ3テスラの機器です。

●3.CT

64列の検出器を搭載したマルチスライスCTです。従来よりも高精細画像で。胸部や冠動脈検査に威力を発揮します。

*人間ドックはもちろん、企業健診の精査にもご活用下さい。

〒553-0003 大阪市福島区福島2丁目1-2
電話：06-6451-6100 予約専用：0120-489-401
E-mail support@nakanoshima-clinic.jp
URL www.nakanoshima-clinic.jp

代議員会議事録

- 日時 平成20年5月20日(土) 12:20~12:50
場所 大阪市大医学部学舎4階小講義室1
- 評議員会成立の確認
現在の代議員数 115名(5月24日現在)
出席36名(委任状52名)
(現在数の過半数の出席により成立-地方会会則第13条)
 - 開会
 - 物故会員の報告
圓藤会長より報告(総会議事録参照)
 - 議長選出
土手友太郎先生(大阪医大)を選出
 - 議事
 - 平成19年度事業報告
 - 平成19年度決算報告
 - 平成19年度監査報告
 - 平成20年度事業計画(案)
 - 平成20年度予算(案)
 - 第48回近畿産業衛生学会について
 - 平成20年度本部及び地方会役員選挙について
詳細は総会議事録参照 会場より異議なく承認された。
 - 閉会

幹事会議事録

- 日時 平成20年5月24日(土) 11:10~12:10
場所 大阪市立大学医学部学舎 18階会議室
出席 圓藤 河野 車谷 植本 上田 大腸 鍵谷
河合 木村 清田 小泉 土手 佐野 鮫島
竹下 長澤 宮上 森岡 山田 荒木田
森本(20年近畿産衛学会会長)
中川(20年近畿産衛学会事務局長)(計22名)
欠席 岡田章 岡田邦 西山 夏目 廣部(計5名)
(敬称略、順不同)
- 報告
 - 物故会員の報告
 - 議事(詳細は総会議事録参照)
 - 平成19年度事業報告
圓藤総務担当理事より報告された。
 - 平成19年度決算報告
圓藤総務担当理事より資報告された。
 - 平成19年度監査報告
上田美代子監事より5月16日(金)に実施された監査について報告がされた。
 - 平成20年度事業計画(案)
圓藤総務担当理事より号掲載されたものを資料として報告と捕捉がされた。
 - 平成20年度予算(案)
圓藤総務担当理事より報告された。
 - 第48回近畿産業衛生学会(平成20年 大阪)について
第48回近畿産業衛生学会長の森本兼兼大阪大学教授より資料に基づいて説明と案内がなされた。
 - 平成20年度本部及び地方会役員選挙について
圓藤吟史会長より、以下7名の先生方が選挙管理委員に推薦された。
なお、7名の選挙管理委員から互選にて選挙管理委員長が選出されることが確認された。
森岡郁晴先生、佐野 敦先生、道辻広美先生、土手友太郎先生、石山珠江先生、上坂聖美先生、鮫島真理子先生

なお、中央選挙管理委員会には6月2日に報告しなければいけない事が植本理事(中央選挙管理委員)より申し述べられた。

- (8) その他
近畿地方会の改選後の新任幹事は、当該年度の総会時から担当が開始される事が申し合わされた。

新入会員 (敬称略)

<新入会員>

- 山下元秀 (株神戸製鋼所鉄鋼部門神戸製鉄所)
中寛章子 (日本ペイント(株)寝屋川事業所)
白水優子 (住友病院産業衛生研究室)
九谷 亘 (鳥田クリニック)
九谷直典 (鳥田クリニック)
大倉早智 (ロート製薬(株))
小谷宏行 (オリックス(株)グループ健康推進室)
中田裕美 (東洋紡績(株)総合研究所診療所)
雑賀佳世子 (ワールド健康保険組合)
吹本小百合 (みずほ健康保険組合大阪健康開発センター)
瓦家千代子 (大阪樟蔭女子大学)
小倉真美 (大阪郵政健康管理センター)
吉田 裕 (株ケイエスラボアナリシス)
森本貴代 (新日本製鐵(株)堺製鐵所)
笹尾 愛 (関西労働衛生技術センター)
奥 俊彦 (奥歯科クリニック)
阪本貴司 (阪本歯科)
緒方 満 (緒方歯科)
橋高又八郎 (キツカ歯科医院)
堀内朋子 (東京エレクトロンAT(株))
津田康博 (津田歯科医院)
松下尚生 (松下歯科医院)
宮 武子 (日新製鋼(株)大阪製造所)
西尾 健 (京都市身体障害者リハビリセンター附属病院)
衣笠加江子 (第一工業製薬(株))
和久純也 (松下産業衛生科学センター)
藤村一美 (兵庫医療大学看護学部)
竹内廣己 (日本予防医学協会西日本総括センター)
森浦千鶴 (ノーリツ鋼機(株))
竹中利佳 (株スタッフサービスホールディングス)
上田尚彦 (中災防大阪労働衛生総合センター)
竹村重輝 (和歌山医大衛生)
西野妙子 (株資生堂大阪工場診療所)
翠 亜希子 (松下電器産業(株)半導体社健康管理室)
横川昭一 (松下電器産業(株)半導体社健康管理室)
川崎知香 (松下健康管理センター)
金澤禎行 (シャープ(株)健康管理室)
伊藤まり子 (若草第一病院)
山本深雪 (大阪税関支部診療所)
橋本治子 (住商ビルマネージメント(株))
小高憲子 (三井住友銀行大阪本店健康開発センター)
菅森ひろみ (大日本スクリーン製造(株))

<再入会>

- 栗原伸公 (関西労災病院医療情報部)
和田安彦 (聖和大学)
岡田 雅 (関西医療大学)
住田幾子 (聖和大学)
金井成行 (関西医療大学)
近藤佳代
中村陽一
津島寿幸
井上二奈
重田博正 (社会医学研究所)
三島 衛
三浦克之 (滋賀医大)

演題募集のお知らせ

第48回近畿産業衛生学会 (第2報)

学会長 森本兼義 教授
(大阪大学 医学系研究科 社会環境医学講座)

1. 開催日時と場所

期 日：平成20年11月22日(土)
会 場：大阪大学医学部 銀杏会館
大阪大学 吹田キャンパス内
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

2. 演題募集要項

- (1) ①演題名、②発表者名、③所属、④簡単な要旨、⑤連絡先等を、9月12日(金)までに学会事務局宛申込んで下さい。「演題申込ファイル」を nakayama@envi.med.osaka-u.ac.jp に請求して頂ければ、添付ファイルで返信させていただきます。添付ファイルにご記入の上、お申込み下さい。本ニュース同封の演題申込み用紙にご記入いただいております。ご記入も結構です。
- (2) 申込み受理後、学会事務局から「抄録用原稿用紙」のファイルをEメールの添付として送信します。郵送をご希望の場合は、その旨、ご連絡下さい。
- (3) 抄録原稿の締切りは10月24日(金)17時です。
- (4) 発表は口演で、一演題12分(口演7分、質疑5分)の予定です。発表用ファイルは、Window XPのPower Point 2000にて作成ください。11月14日(金)までに事務局宛にお送り下さい。
- (5) 「地方会・研究会記録」に掲載する原稿を、演題名、発表者、所属、発表の概要(400字以内)をTextファイルの形式で11月14日(金)までに事務局宛にお送りください。

3. プログラム(予定)

10:00~11:50 一般演題(口演)
11:40~12:20 幹事会
12:20~12:40 代議員会
12:40~13:40 昼食懇親会

13:45~14:45 特別講演 座長(圓藤 吟史)
六反 一仁(徳島大学)
ストレスの理解：
ストレス関連疾患と遺伝子発現

14:50~17:00 シンポジウム
座長(宮下 和久・河野 公一)
安寧の労働を求めて：
ストレスコミュニケーション
小泉 昭夫(京都大学)
環境リスクコミュニケーション
夏目 誠(大阪樟蔭女子大学)
上司・同僚のサポートとストレス反応変容
堤 明純(産業医科大学)
労働格差の意味するもの
茂原 治((財)和歌山健康センター)
森林自然交流と働く意欲
鈴木 純子(日本アイビーエム)
職場のストレスのケアとキュー

4. その他

- ・特別講演・シンポジウムに関しては、日本医師会産業医研修の単位認定(基礎研修(後期)または生涯研修(専門)の3単位)、日本産業衛生学会産業看護職継続教育(実力アップコース)単位認定を申請中です。
- ・学会参加申込みは学会当日受付いたします(事前申込みは必要ありません)。
- ・学会参加費は日本産業衛生学会の学会員1000円、非学会員3000円です。

5. 学会事務局(演題申込み先及び問い合わせ先)

大阪大学 医学系研究科 社会環境医学講座
第48回近畿産業衛生学会事務局 中山邦夫
〒565-0871 吹田市山田丘2-2
Tel: 06-6879-3922 Fax: 06-6879-3928
E-mail: nakayama@envi.med.osaka-u.ac.jp
<http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/envi/kinkisanei/kinkisanei1.html>

編集後記

爽やかな6月、北海道での日本産業衛生学会に参加してきました。所用で参加日数が短かったので、もう少し北海道の食を楽しみたかったと思っています。この想いは、次回に繋げたいと思います。

今までも近畿地方会ニュースを読んできましたが、今回初めて編集に携わせていただき、より一層愛着が湧きました。そしてなにより、隅々まで読ませていただいています。こんなに精読したことはありませんでした。

編集委員の役割は、学会員の方から原稿を集め、編集・出版作業を行なうことでもあります。最近では電子化出版になり、編集から出版に要する時間が少なくなりました。しかし、原稿依頼等の編集作業は、効率化が難しい作業であることを実感しました。編集委員として掲載記事の執筆をお願いすることが多いのですが、学会員で知っている方が少なく、つついっ心安い人に頼んでしまいます。その結果、同じ人が記事を書いてしまう傾向があります。この状況を打開するために、代議員の方に順番で記事を依頼することなども考えています。いかがでしょうか。

おっと気がつけば、この記事の締め切りが過ぎてしまいました。では皆さん、すがすがしい11月に大阪吹田でお会いしましょう。(森岡郁晴)

編集委員(五十音順)

荒木田美香子・植本寿満枝(編集責任)・木村 隆・竹下達也
長澤孝子・宮上浩史・森岡郁晴(広報事務局)